



欄に数値またはコメントを記入

<b>1. 建物概要</b>						
建物名称	島田市役所	BEE	3.5	BEEランク	S	★★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	4.5	/5	よい			
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	4.9	/5	よい			
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.4	/5	よい			
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.9	/5	ふつう			
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつう 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目		
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。				
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)</b>		得点	<b>4.5</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>①Low-eガラス等の採用</li> <li>②中央吹き抜け部のハイサイドライトと執務室の窓台</li> <li>③ブラインド及び庇にて制御</li> <li>④外壁仕上げ材の補修必要間隔:30年以上</li> <li>⑤主要内装仕上げ材の更新必要間隔:20年以上</li> <li>⑥空調換気ダクトの更新必要間隔:SUS・ガルバリウムダクトの採用</li> <li>⑦空調・給排水配管の更新必要間隔:主要上位3種配管の内2種にC以上を採用</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑤自生種の保全に配慮した緑地づくりを行っている</li> <li>⑥建築設備に伴う排熱の位置に配慮し、敷地内歩行空間の暑熱環境を緩和</li> </ul> </li> <li>■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑦Low-eガラス等の採用</li> <li>⑧自然通風、ハイサイドライト、クールピット、地下水熱利用設備を採用</li> <li>⑨LED照明の採用。高効率空調機の採用</li> <li>⑩BEMSの導入によるエネルギー管理</li> </ul> </li> <li>■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑪節水コマ・節水型機器の採用</li> <li>⑫コンクリート設計基準強度Fc36を採用</li> <li>⑬ネットワークフロア・ソーラロンを採用</li> <li>⑭木材はすべて、大井川流域の杉材を採用</li> <li>⑮外壁はすべて、RC+軽鉄+仕上げ材(ボード)を採用</li> <li>⑯不活性ガス消火剤(窒素)の採用</li> <li>⑰断熱材はノンフロンを採用</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能</li> <li>Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備</li> <li>3 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御</li> <li>Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数</li> <li>2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔</li> <li>2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔</li> <li>2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔</li> <li>2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔</li> <li>2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔</li> <li>Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出</li> <li>3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上</li> <li>LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制</li> <li>2 ⑧ 自然エネルギー利用</li> <li>3 ⑨ 設備システムの高効率化</li> <li>4 4.1 ⑩ モニタリング</li> <li>4.2 ⑩ 運用管理体制</li> <li>LR-2 1 1.1 ⑪ 節水</li> <li>1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無</li> <li>1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無</li> <li>2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減</li> <li>2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用</li> <li>2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用</li> <li>2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用</li> <li>2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材</li> <li>2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み</li> <li>3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用</li> <li>3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤</li> <li>3.2.2 ⑬ 断熱材</li> <li>3.2.3 ⑬ 冷媒</li> <li>LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮</li> <li>2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善</li> </ul>			
	<b>"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)</b>		得点	<b>4.9</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑯告示第1461号で規定されている方法より検証</li> <li>⑰建物に対して免震構造を採用</li> <li>⑱熱源種の分散化、災害拠点系統の優先運転等を採用</li> <li>⑲節水型器具、非常用水槽、木槽受水槽と地下ピット水槽、井水利用等を採用</li> <li>⑲非常用発電機、無停電電源装置、電源車接続時に利用可能な照明配線等の採用</li> <li>⑲通信手段の多様化、災害時の有線電話、FAX、地域防災無線の採用</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性</li> <li>2.1.2 ⑯ 免震・制振性能</li> <li>2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備</li> <li>2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備</li> <li>2.4.3 ⑰ 電気設備</li> <li>2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法</li> <li>2.4.5 ⑰ 通信・情報設備</li> </ul>		
		<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)</b>		得点
<ul style="list-style-type: none"> <li>■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑱基準階高4.2mとして計画</li> <li>⑲壁長さ比率0.101として計画</li> </ul> </li> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑲帯桜などの地域資源を残しながら、外部の市民スペースを創出</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画</li> <li>3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり</li> <li>3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ</li> <li>Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上</li> </ul>			
	<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)</b>		得点	<b>3.9</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>■室外環境(敷地内)対策 (⑵生物環境の保全と創出/⑶まちなみ・景観への配慮/⑶敷地内温熱環境の向上)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑵自生種の保全に配慮した緑地づくりを行っている</li> <li>⑶緑地の緑が連続するような外構植栽計画を行った。</li> </ul> </li> <li>■敷地外環境対策 (⑳持続可能な森林から産出された木材/⑳温熱環境悪化の改善)                     <ul style="list-style-type: none"> <li>⑳木材はすべて、大井川流域の杉材を採用</li> <li>⑳地域の気流の分析及び気流解析の実施</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Q-3 1 ⑵ 生物環境の保全と創出</li> <li>2 ⑶ まちなみ景観への配慮</li> <li>3 3.2 ⑶ 敷地内温熱環境の向上</li> <li>LR-2 2 2.5 ⑳ 持続可能な森林から産出された木材</li> <li>LR-3 2 2.2 ⑳ 温熱環境悪化の改善</li> </ul>			

# CASBEE®-建築(新築)

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 ■使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v4.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	島田市役所新庁舎	階数	地上4F
建設地	静岡県島田市	構造	RC造
用途地域	第2種住居地域、防火指定なし	平均居住人員	590 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2023年9月 予定	評価の実施日	2021年7月5日
敷地面積	13,117 m <sup>2</sup>	作成者	十河一樹
建築面積	3,401 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	11,256 m <sup>2</sup>	確認者	



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 3.5** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

★☆☆☆☆

標準計算

①参照値 100%  
②建築物の取組み 72%  
③上記+②以外のオンサイト手法 52%  
④上記+オフサイト手法 52%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 4.1**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア= 4.1

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア= 4.2

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 4.1

**LR のスコア = 4.1**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア= 4.7

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.6

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.7

3 設計上の配慮事項	
総合 これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	その他
<b>Q1 室内環境</b> 外皮性能は高い断熱性能のほか庇による日射制御やLow-eペアガラスを採用。執務室の空調は床吹き出しで居住域空調を採用。卓越風を効率的に取り込むための外部建具をつくり、自然換気を促している。	<b>Q2 サービス性能</b> 執務室は天井は無く広さ感があり、眺望が確保できる大きな窓を設置、また十分な広さの休憩室を配置。免震構造を採用し、耐久性のある内装仕上げを使用。執務室は階高4.2mの大部屋で、フレキシブルに部署再編に対応可能。
<b>LR1 エネルギー</b> 自然エネルギーの利用として外壁建具を履行させた自然換気定風量装置を設置し、誘引力を高めるエコポイドで通風を促す。また地下水の熱エネルギーを空調に利用している。	<b>LR2 資源・マテリアル</b> 大井川流域産材の木材を天井、壁、家具、受水槽に利用し地域経済に貢献。またリサイクル資材を多く採用している。井水を熱源水に利用すると共に生活用水及び災害対策に利用している。
	<b>Q3 室外環境(敷地内)</b> 南側の前面道路に対して市民の憩いの場や緑地帯をつくり、まちの回遊性を演出。市のシンボル「帯桜」の緑地帯は再整備、保全を行い、市民に頼まれるランドスケープデザインでまちづくりに貢献。
	<b>LR3 敷地外環境</b> 交通渋滞に配慮し、十分な駐車台数の確保と出入口を複数箇所設置。雨水流出抑制装置を設置し、敷地外への突発的な流出を抑制。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される  
 ■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照された